

2014/10/6

柏の景気情報（平成26年9月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成26年9月分）

○ 調査期間 : 平成26年9月22日 ~ 9月26日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	82	51.9%
建設	44	24	54.5%
製造	33	16	48.5%
卸・小売	43	27	65.1%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成26年9月の調査結果のポイント】

≪業況DIは横ばい推移。先行き見通しはやや改善基調もコスト増が不安要素≫

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.8(前月水準▲27.3)となり、マイナス幅が0.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同▲20.0)、卸小売業▲59.2(同▲66.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲4.1(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲25.0(同▲11.7)である。

【建設業】からは、「動きが鈍いように感じる。必要な工事だけを最小限にといった感じ」(一般土木建築工事業)、「9月決算の当社、見通しとしては長年続いた赤字からの脱却が出来るかも知れません。賃上げが出来たらと考えております」(内装工事業)、「景況感悪くないが、逆に良くもない。賃上げは無理。当分現状維持。雇用については、正規2名、非正規社員2名の4名採用した」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「利益は円安でやや増加。売上は横ばい」(織物業)、「受注時期が偏っており、繁忙と閑散が激しく、需要変動への対応が難しくなっている」(その他の機械・同部品製造業)、などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「前年と比較し気温が低い影響を受け、衣料品秋物商材の動きは活発であるものの、例年この時期に動きのある夏物最終処分品の落ち込みが激しい。消費税増税影響による売上ダウン傾向も改善し、時計・宝飾品の高額品及び化粧品といった増税特需の恩恵を受けた商材もトレンド上昇基調で、前年実績を確保の見込み」(百貨店)、「8月末に気温が下がったところで、夏物が一気に止まり秋物に移行した。ここ数年残暑が厳しく、秋物がないまま冬物になっていたが、数年ぶりに秋物が好調で夏物セール品ではなく、単価の高い秋物の分、売上も上がっている」(婦人・子供服小売業)、「売上減少が続いている。再度の増税前に設備投資の予定だったが、個人消費の動向から見直す方向に」(その他の各種商品小売業)、「例年9月に入ると売上が上昇してくるのだが、今年は全く駄目。今後が不安です」(菓子・パン小売業)、「9月は涼しい日が続く、客足は悪くなかった」(菓子・パン小売業)、「最近の青果物は、気温低下等から一部品薄状況による高値取引傾向、産地でも安定供給を見込んでいるが、今後の台風の影響を気にしながらの対応も考慮しています。秋の季節に入り、行楽地、イベントなどが多く企画されているので、需要に合わせた取り組みをしていきます」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「下期の追い込み設備投資を期待しています。自社製品を確立していかなければ生き残れない」(ソフトウェア業)、「法人需要では、秋の職場旅行、招待旅行の案件がピーク。2015年案件の予算取りの為の問い合わせも発生し始めている。個人の海外旅行では、10月のハワイがOLやハネムーンに人気ではあるが、1月以降の動きは例年より遅い。年末年始はアジアを中心に既にいっぱい。1月1日以降の出発日であれば可能性有り。国内旅行は、今秋、富岡製糸場と軽井沢間の無料シャトルバス付き商品が大人気。しなの鉄道「ろくもん」や紅葉時期の京都が人気。年末年始の動きが早く、伊豆・箱根は既に満員」(旅行業)などのコメントが寄せられた。

◎原材料費高騰

各業種から、「ゼネコンからの施工単価は改善されず、材料費は値上がり続けている為、賃金、外注先への発注単価の見直しは厳しい」(その他の職別工事業)、「資材高や人手不足等からくる新築コスト増加で、建設予定の重構造賃貸物件の採算が合わなくなる場合が増えている。今後の税を含む社会的コスト増と社会構造の変化を考えた場合、一層の経営努力の必要性を感じています」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎仕入れ価格上昇

各業種から、「天候不順や円高等の影響があり、相変わらず仕入れ単価は上昇傾向にある。食品業界の個人消費は安定してきているが、仕入れの単価が上がってきているので、価格転嫁が出来ているかがキーポイントである」(各種食料品小売業)、「お客様からの反響数が増えています。契約件数も僅かずつですが増えています。建築費、人件費、土地の仕入れ等も上昇してきました」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種から、「9月決算の影響もあり、本来の予定工期よりも早い前倒し工期の現場が多く、9月は売上増となったが、職人不足に拍車をかけた」(その他の職別工事業)、「消費税増税以上に、材料代の値上りが多い。人手不足も聞かれる。予定されている消費税10%の影響が少しずつ出始めている」(電気工事業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲15.4	▲15.3	△11.1	▲42.8	△8.3
5月	▲23.5	▲20.8	▲11.7	▲46.4	±0.0
6月	▲27.0	▲4.0	▲31.2	▲57.1	▲6.2
7月	▲22.2	△4.1	▲18.7	▲61.5	±0.0
8月	▲27.3	±0.0	▲11.7	▲66.6	▲20.0
9月	▲26.8	▲4.1	▲25.0	▲59.2	▲6.6
見通し	▲15.8	▲8.3	△25.0	▲51.8	▲6.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成26年9月の業況についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.8(前月水準▲27.3)となり、マイナス幅が0.5ポイント縮小した。

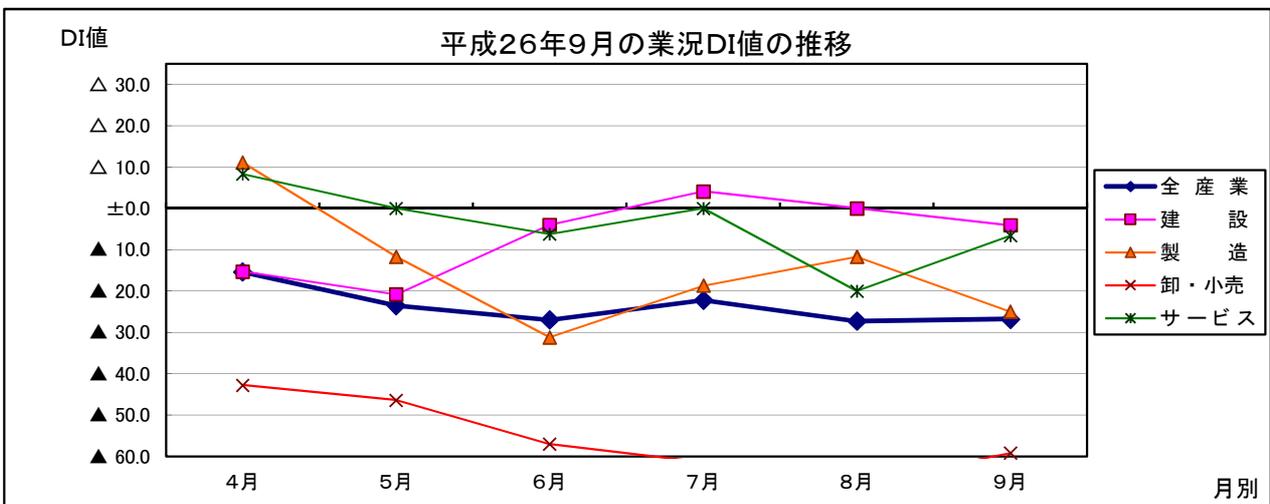
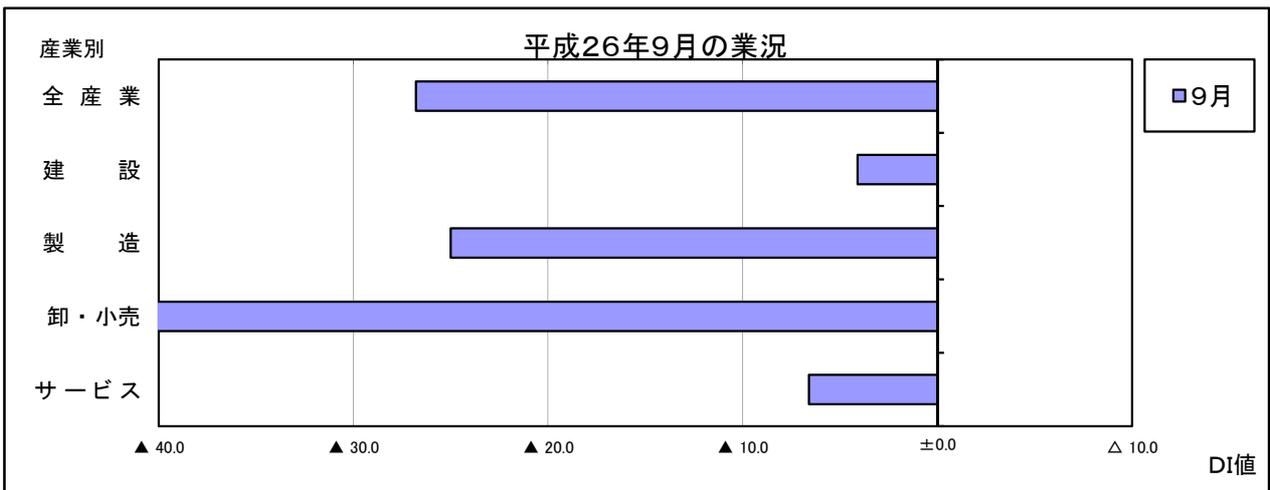
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同▲20.0)、卸小売業▲59.2(同▲66.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲4.1(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲25.0(同▲11.7)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.8(前月水準▲19.0)となり、マイナス幅が3.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△25.0(同▲17.6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲8.3(同±0.0)、サービス業▲6.6(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲51.8(同▲48.1)である。

平成26年9月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲15.4	▲23.5	▲27.0	▲22.2	▲27.3	▲26.8	▲15.8(▲19.0)
建設	▲15.3	▲20.8	▲4.0	△4.1	±0.0	▲4.1	▲8.3(±0.0)
製造	△11.1	▲11.7	▲31.2	▲18.7	▲11.7	▲25.0	△25.0(▲17.6)
卸・小売	▲42.8	▲46.4	▲57.1	▲61.5	▲66.6	▲59.2	▲51.8(▲48.1)
サービス	△8.3	±0.0	▲6.2	±0.0	▲20.0	▲6.6	▲6.6(±0.0)



【平成26年9月の売上についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.8(前月水準▲22.6)となり、マイナス幅が6.8ポイント縮小した。

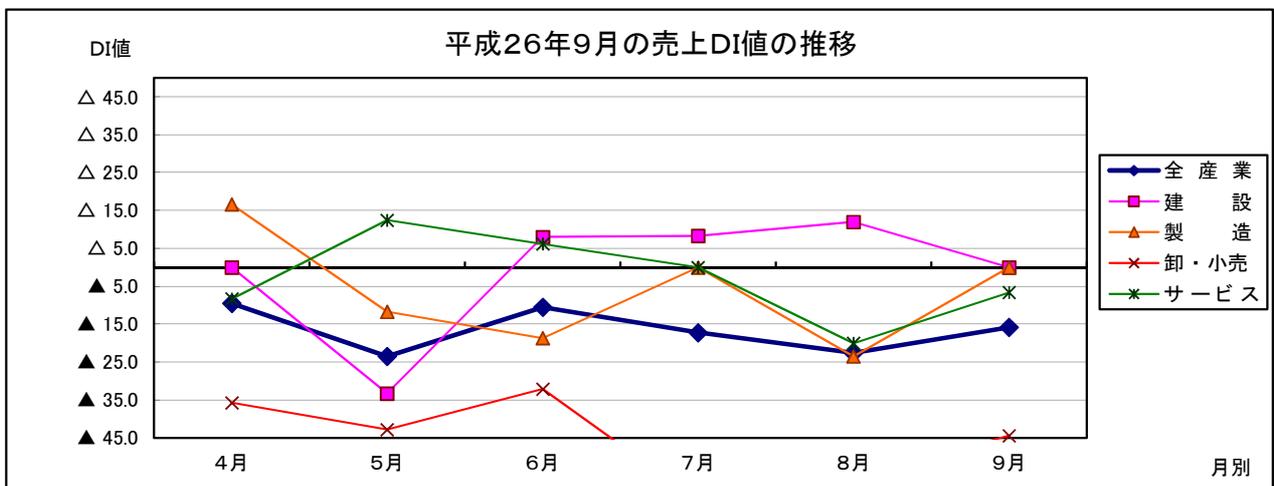
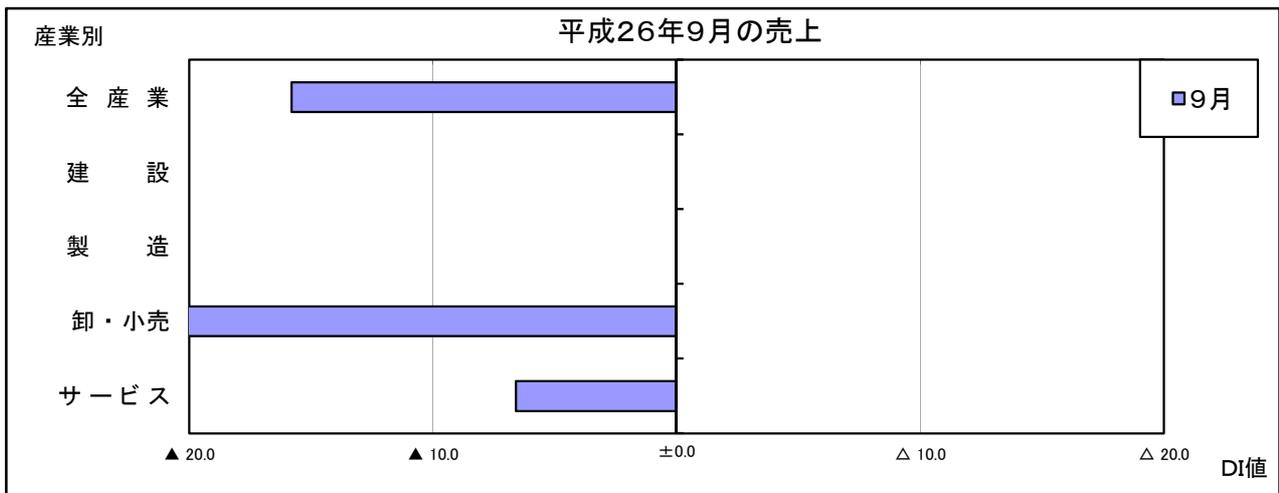
業種別では、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業±0.0(同▲23.5)であり、▲23.5ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同▲20.0)、卸小売業▲44.4(同▲55.5)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△12.0)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.4(前月水準▲3.5)となり、マイナス幅が1.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△12.5(同▲5.8)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲25.9(同▲40.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同△16.0)、サービス業△20.0(同△33.3)である。

平成26年9月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲9.5	▲23.5	▲10.5	▲17.2	▲22.6	▲15.8	▲2.4(▲3.5)
建設	±0.0	▲33.3	△8.0	△8.3	△12.0	±0.0	±0.0(△16.0)
製造	△16.6	▲11.7	▲18.7	±0.0	▲23.5	±0.0	△12.5(▲5.8)
卸・小売	▲35.7	▲42.8	▲32.1	▲61.5	▲55.5	▲44.4	▲25.9(▲40.7)
サービス	▲8.3	△12.5	△6.2	±0.0	▲20.0	▲6.6	△20.0(△33.3)



【平成26年9月の採算についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.8(前月水準▲28.5)となり、マイナス幅が1.7ポイント縮小した。

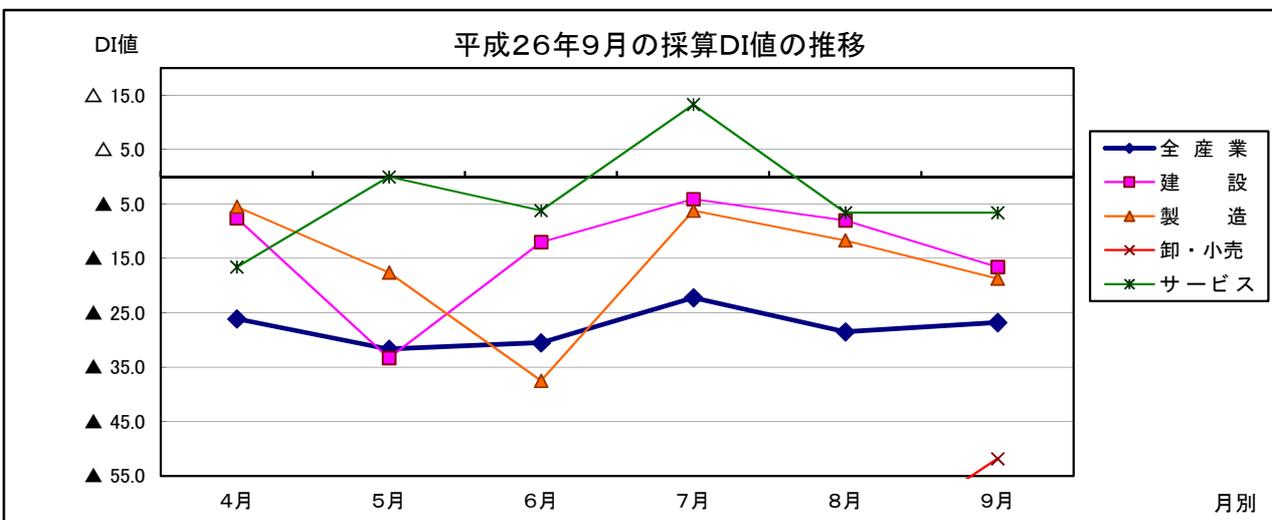
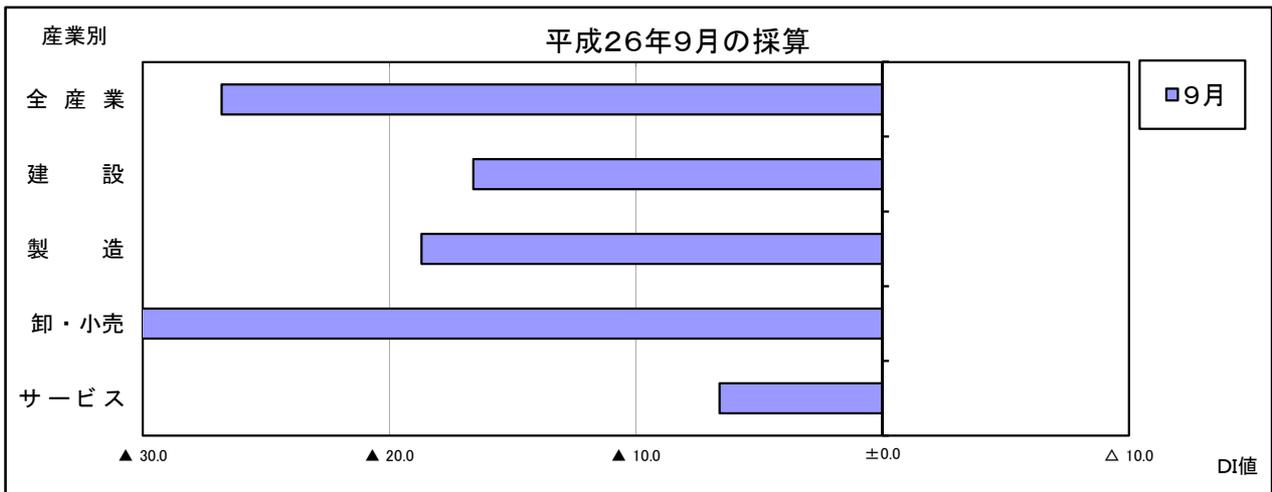
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲51.8(同▲70.3)である。変わらない業種は、サービス業▲6.6(同▲6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲16.6(同▲8.0)、製造業▲18.7(同▲11.7)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲18.2(前月水準▲17.8)となり、マイナス幅が0.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業±0.0(同▲29.4)であり、29.4ポイントと大幅に改善した。変わらない見通しの業種は、卸小売業▲48.1(同▲48.1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△13.3)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲8.3(同△4.0)である。

平成26年9月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲26.1	▲31.7	▲30.5	▲22.2	▲28.5	▲26.8	▲18.2(▲17.8)
建設	▲7.6	▲33.3	▲12.0	▲4.1	▲8.0	▲16.6	▲8.3(△4.0)
製造	▲5.5	▲17.6	▲37.5	▲6.2	▲11.7	▲18.7	±0.0(▲29.4)
卸・小売	▲60.7	▲57.1	▲57.1	▲69.2	▲70.3	▲51.8	▲48.1(▲48.1)
サービス	▲16.6	±0.0	▲6.2	△13.3	▲6.6	▲6.6	±0.0(△13.3)



【平成26年9月の仕入単価についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲54.8(前月水準▲45.2)となり、マイナス幅が9.6ポイント拡大した。

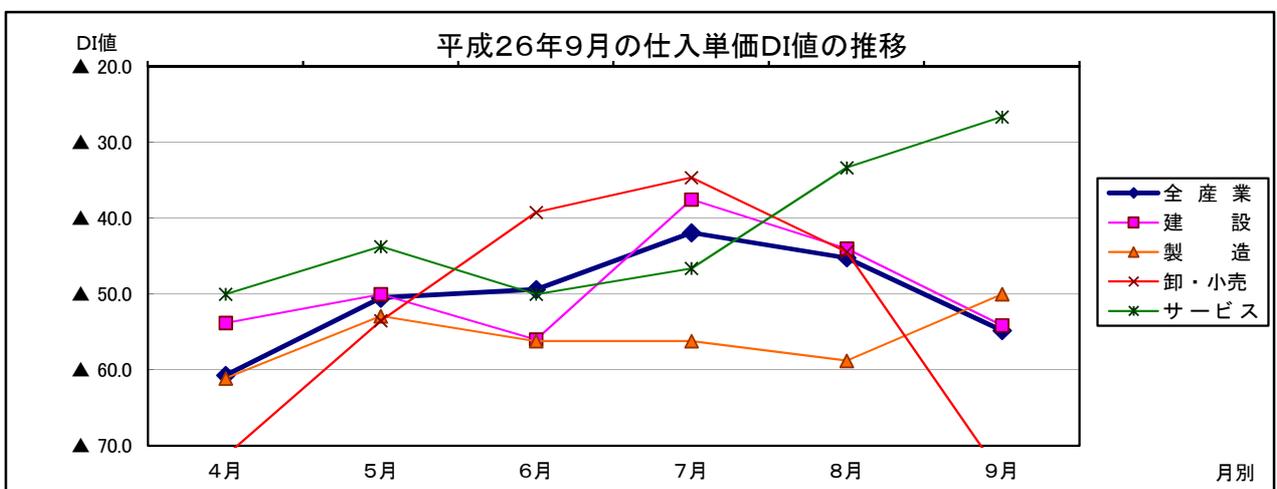
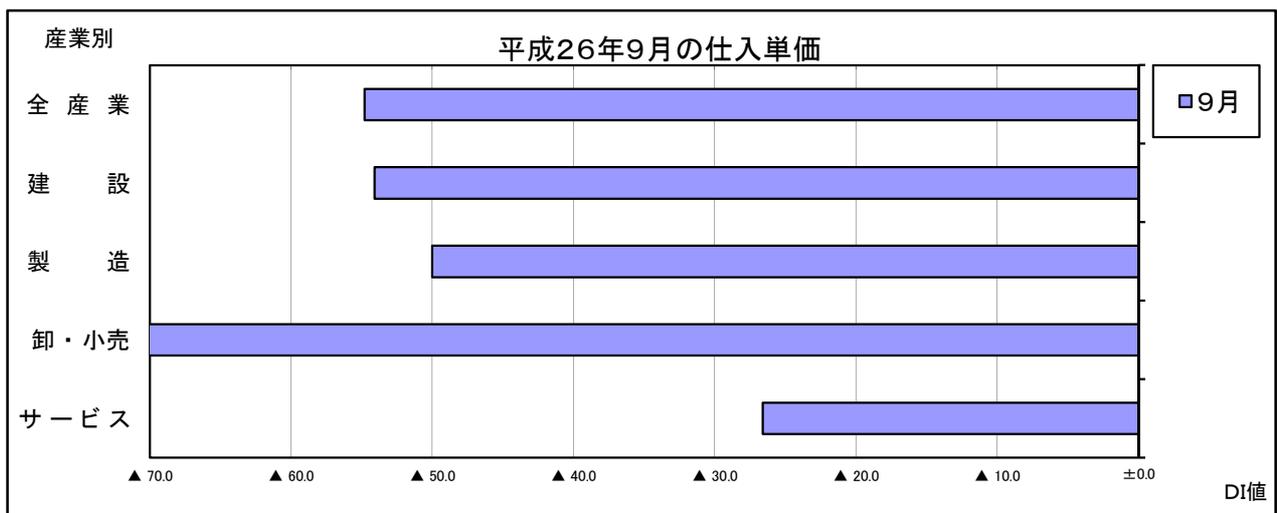
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲50.0(同▲58.8)、サービス業▲26.6(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲74.0(同▲44.4)、建設業▲54.1(同▲44.0)であり、特に卸小売業では、マイナス幅が▲29.6ポイントと大幅に拡大した。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲42.6(前月水準▲32.1)となり、マイナス幅が10.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲26.6(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲37.5(同▲17.6)、卸小売業▲55.5(同▲40.7)、建設業▲41.6(▲32.0)である。

平成26年9月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲60.7	▲50.5	▲49.4	▲41.9	▲45.2	▲54.8	▲42.6(▲32.1)
建設	▲53.8	▲50.0	▲56.0	▲37.5	▲44.0	▲54.1	▲41.6(▲32.0)
製造	▲61.1	▲52.9	▲56.2	▲56.2	▲58.8	▲50.0	▲37.5(▲17.6)
卸・小売	▲71.4	▲53.5	▲39.2	▲34.6	▲44.4	▲74.0	▲55.5(▲40.7)
サービス	▲50.0	▲43.7	▲50.0	▲46.6	▲33.3	▲26.6	▲26.6(▲33.3)



【平成26年9月の従業員についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△4.8(前月水準△2.3)となり、プラス幅が2.5ポイント拡大した。

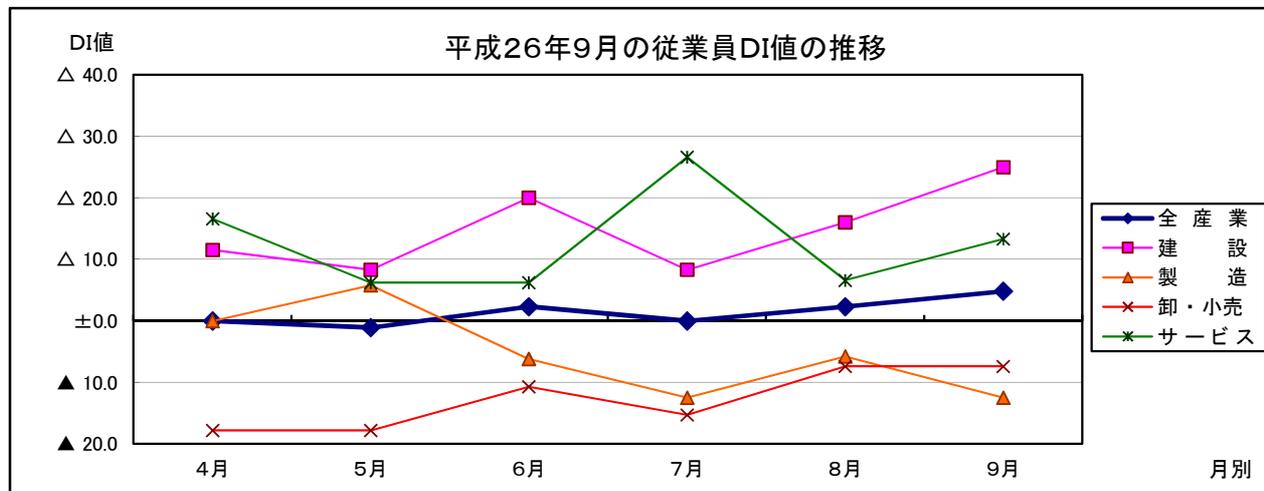
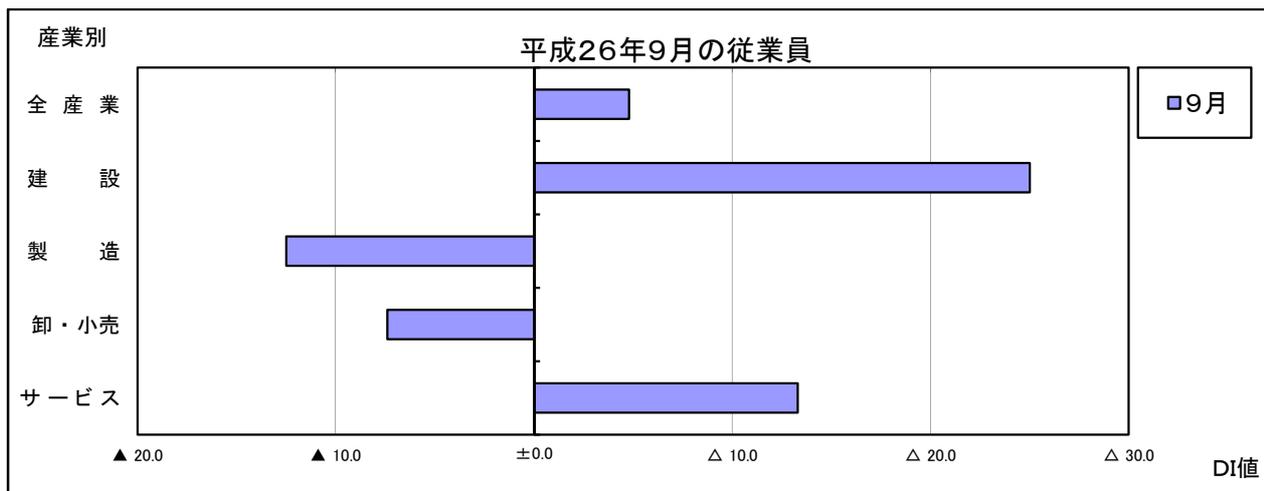
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△25.0(同△16.0)、サービス業△13.3(△6.6)である。変わらない業種は、卸小売業▲7.4(同▲7.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲12.5(▲5.8)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△9.7(前月水準△10.7)となり、プラス幅が1.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△20.0(同△13.3)、建設業△20.8(同△20.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△6.2(同△11.7)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、卸小売業▲3.7(±0.0)である。

平成26年9月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	±0.0	▲1.1	△2.3	±0.0	△2.3	△4.8	△9.7(△10.7)
建設	△11.5	△8.3	△20.0	△8.3	△16.0	△25.0	△20.8(△20.0)
製造	±0.0	△5.8	▲6.2	▲12.5	▲5.8	▲12.5	△6.2(△11.7)
卸・小売	▲17.8	▲17.8	▲10.7	▲15.3	▲7.4	▲7.4	▲3.7(±0.0)
サービス	△16.6	△6.2	△6.2	△26.6	△6.6	△13.3	△20.0(△13.3)



【平成26年9月の資金繰りについての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.9(前月水準▲17.8)となり、マイナス幅が6.9ポイント縮小した。

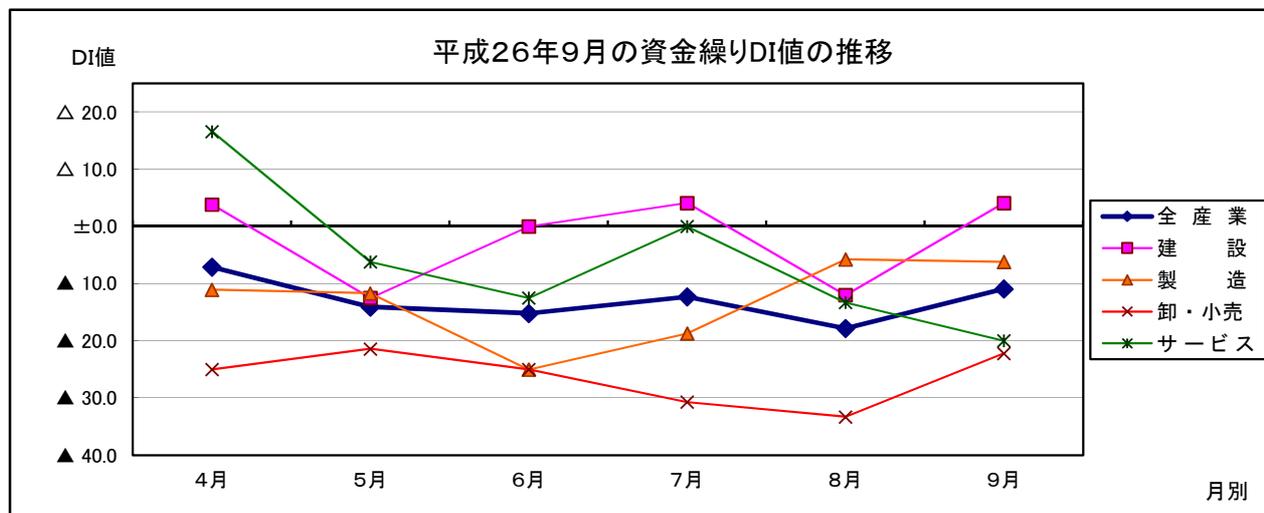
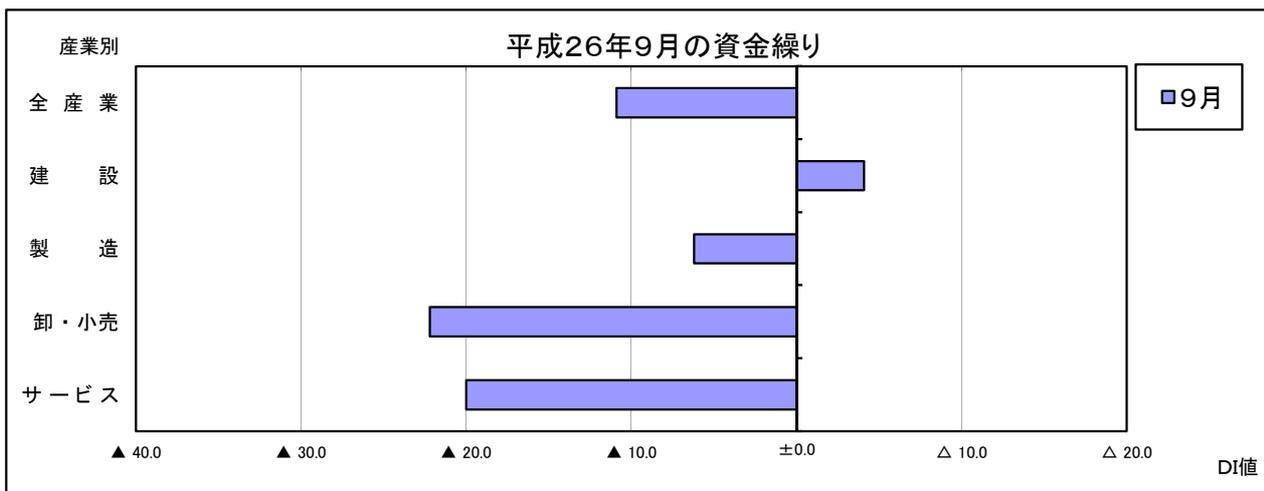
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△4.1(同▲12.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲22.2(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20.0(同▲13.3)、製造業▲6.2(▲5.8)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.9(前月水準▲14.2)となり、マイナス幅が3.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△6.2(▲5.8)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲33.3(▲44.4)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△4.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲6.6(±0.0)である。

平成26年9月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成26年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲7.1	▲14.1	▲15.2	▲12.3	▲17.8	▲10.9	▲10.9(▲14.2)
建設	△3.8	▲12.5	±0.0	△4.1	▲12.0	△4.1	±0.0(△4.0)
製造	▲11.1	▲11.7	▲25.0	▲18.7	▲5.8	▲6.2	△6.2(▲5.8)
卸・小売	▲25.0	▲21.4	▲25.0	▲30.7	▲33.3	▲22.2	▲33.3(▲44.4)
サービス	△16.6	▲6.2	▲12.5	±0.0	▲13.3	▲20.0	▲6.6(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 15.8	▲ 2.4	▲ 26.8	▲ 18.2	▲ 54.8	▲ 42.6	△ 4.8	△ 9.7
建設	±0.0	±0.0	▲ 16.6	▲ 8.3	▲ 54.1	▲ 41.6	△ 25.0	△ 20.8
製造	±0.0	△ 12.5	▲ 18.7	±0.0	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 12.5	△ 6.2
卸・小売	▲ 44.4	▲ 25.9	▲ 51.8	▲ 48.1	▲ 74.0	▲ 55.5	▲ 7.4	▲ 3.7
サービス	▲ 6.6	△ 20.0	▲ 6.6	±0.0	▲ 26.6	▲ 26.6	△ 13.3	△ 20.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 26.8	▲ 15.8	▲ 10.9	▲ 10.9
建設	▲ 4.1	▲ 8.3	△ 4.1	±0.0
製造	▲ 25.0	△ 25.0	▲ 6.2	△ 6.2
卸・小売	▲ 59.2	▲ 51.8	▲ 22.2	▲ 33.3
サービス	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 20.0	▲ 6.6

【平成26年9月の業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	キーワード	業種
建設	動きが鈍いように感じる。必要な工事だけを最小限にといった感じ。	受注の鈍化・縮小	一般土木建築工事業
	消費税増税以上に、材料代の値上りが多い。人手不足も聞かれる。予定されている消費税10%の影響が少しずつ出始めている。	原材料費高騰 人手不足 消費税増税	電気工事業
	9月決算の当社、見通しとしては長年続いた赤字からの脱却が出来るかも知れませんが、賃上げが出来たらと考えております。	赤字からの脱却 賃上げ	内装工事業
	景況感は悪くないが、逆に良くもない。賃上げは無理。当分現状維持。雇用については、正規2名、非正規社員2名の4名採用した。	新規雇用	その他の職別工事業
	9月決算の影響もあり、本来の予定工期よりも早い前倒し工期の現場が多く、9月は売上増となったが、職人不足に拍車をかけた。そのため、施工単価の値上げ、条件変更、突然のキャンセル等も出た。ゼネコンからの施工単価は改善されず、材料費は値上がり続けている為、賃金、外注先への発注単価の見直しは厳しい。	売上増加 人手不足(職人不足) 施工単価値上げ 不採算 原材料費高騰	その他の職別工事業
製造業	利益は円安でやや増加。売上は横ばい。	利益増加 円安	織物業
	受注時期が偏っており、繁忙と閑散が激しく、需要変動への対応が難しくなっている。	受注時期の偏り	その他の機械・同部品製造業
	景況改善は、既成経済の発展を追いかけるのではなく、新時代の流れを理解受容し、角度を変えた事業展開が必要である。生産性の無い資金調達ではなく、小さな振りで大きな効果を得たいものである。		印刷業
卸小売	前年と比較し気温が低い影響を受け、衣料品秋物商材の動きは活発であるものの、例年この時期に動きのある夏物最終処分品の落ち込みが激しい。消費税増税影響による売上ダウン傾向も改善し、時計・宝飾品の高額品及び化粧品といった増税特需の恩恵を受けた商材もトレンド上昇基調で、前年実績を確保の見込み。	秋物商材 増税後の反動減回復	百貨店
	8月末に気温が下がったところで、夏物が一気に止まり秋物に移行した。ここ数年残暑が厳しく、秋物がないまま冬物になっていたが、数年ぶりに秋物が好調で夏物セール品ではなく、単価の高い秋物の分、売上も上がっている。	秋物商材 売上増加	婦人・子供服小売業
	売上減少が続いている。再度の増税前に設備投資の予定だったが、個人消費の動向から見直す方向に。	個人消費低迷 設備投資先送り	その他の各種商品小売業
	天候不順や円高等の影響があり、相変わらず仕入れ単価は上昇傾向にある。食品業界の個人消費は安定してきているが、仕入れの単価が上がってきているので、価格転嫁が出来ているかがキーポイントである。	天候不順 仕入れ価格上昇 価格転嫁 個人消費安定化	各種食料品小売業
	例年9月に入ると売上が上昇してくるのだが、今年は全く駄目。今後が不安です。	先行き不安	菓子・パン小売業
	9月は涼しい日が続き、客足は悪くなかった。	客数安定	菓子・パン小売業

【平成26年9月の業種別業界内トピックス】

	最近の青果物は、気温低下等から一部品薄状況による高値取引傾向、産地でも安定供給を見込んでいるが、今後の台風の影響を気にしながらの対応も考慮しています。秋の季節に入り、行楽地、イベントなどが多く企画されているので、需要に合わせた取り組みをしていきます。	気温低下 品薄による高値取引	食料・飲料卸売業
	近くに大型の住宅分譲中(100世帯1ヶ所、90世帯1ヶ所、38世帯1ヶ所)。完売時に客増を期待していますが、消費税や職人不足の為に入居が遅れている。今後に期待。猛暑のため、行事(小中学校の運動会、文化祭)が先延ばしされて、以前より集中した販売がなく、期間が長い分お客さまが選択拡散している。※柏の葉キャンパス、おたかの森駅間の直通路開通に伴い、お客さまの拡散があり、来客者の商品選択が厳しくなった。	大型分譲住宅 客数増加への期待 来客数の分散化	その他の飲食料点小売業
	お客様からの反響数が増えています。契約件数も僅かずつですが増えています。建築費、人件費、土地の仕入れ等も上昇してきました。	建築費上昇 人件費上昇 仕入れ価格上昇(建築コスト)	不動産管理業
	柏駅周辺のホテル宴会場の減少をまず第一に考えなければ周囲の商店の売上は減少の一途です。		不動産賃貸業
サービス	資材高や人手不足等からくる新築コスト増加で、建設予定の重構造賃貸物件の採算が合わなくなる場合が増えている。今後の税を含む社会的コスト増と社会構造の変化を考えた場合、一層の経営努力の必要性を感じています。	仕入れ価格上昇(建築コスト) 原材料費高騰 人手不足 不採算	不動産賃貸・管理業
	下期の追い込み設備投資を期待しています。自社製品を確立していかなければ生き残れない。	設備投資への期待	ソフトウェア業
	法人需要では、秋の職場旅行、招待旅行の案件がピーク。2015年案件の予算取りの為に問い合わせも発生し始めている。個人の海外旅行では、10月のハワイがOLやハネムーンに人気ではあるが、1月以降の動きは例年より遅い。年末年始はアジアを中心に既にいっぱい。1月1日以降の出発日であれば可能性有り。国内旅行は、今秋、富岡製糸場と軽井沢間の無料シャトルバス付き商品が大人気。しなの鉄道「ろくもん」や紅葉時期の京都が人気。年末年始の動きが早く、伊豆・箱根は既に満員。	法人需要のピーク 来年案件の発生 富岡製糸場	旅行業

◎原材料費高騰

ゼネコンからの施工単価は改善されず、材料費は値上がり続けている為、賃金、外注先への発注単価の見直しは厳しい。

その他の職別工事業

資材高や人手不足等からくる新築コスト増加で、建設予定の重構造賃貸物件の採算が合わなくなる場合が増えている。今後の税を含む社会的コスト増と社会構造の変化を考えた場合、一層の経営努力の必要性を感じています。

不動産賃貸・管理業

◎仕入れ価格上昇

天候不順や円高等の影響があり、相変わらず仕入れ単価は上昇傾向にある。食品業界の個人消費は安定してきているが、仕入れの単価が上がってきているので、価格転嫁が出来ているかがキーポイントである。

各種食料品小売業

お客様からの反響数が増えています。契約件数も僅かずつですが増えています。建築費、人件費、土地の仕入れ等も上昇してきました。

不動産管理業

◎人手不足

9月決算の影響もあり、本来の予定工期よりも早い前倒し工期の現場が多く、9月は売上増となったが、職人不足に拍車をかけた。

その他の職別工事業

消費税増税以上に、材料代の値上りが多い。人手不足も聞かれる。予定されている消費税10%の影響が少しずつ出始めている。

電気工事業

平成26年9月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.8に対し、「CCI-LOBO」が▲24.2で柏の方がマイナス幅が2.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業で、サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.8に対し、「CCI-LOBO」が▲16.9で柏の方がマイナス幅が1.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業、サービス業で、製造業、サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.8に対し、「CCI-LOBO」が▲25.8で柏の方がマイナス幅が1.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業で、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲54.8に対し、「CCI-LOBO」が▲51.7で、柏の方がマイナス幅が3.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業で、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△4.8に対し、「CCI-LOBO」が△11.8で柏の方がプラス幅が7.0ポイント小さい。業種別では、全ての業種が「柏の景気」の方が悪く、製造業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.9に対し、「CCI-LOBO」が▲15.4で柏の方がマイナス幅が4.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業、卸小売業で、建設業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業である。

平成26年9月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 26.8	 ▲ 4.1	 ▲ 25.0	 ▲ 59.2	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 24.2	 ▲ 10.4	 ▲ 13.1	 ▲ 42.2	 ▲ 24.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 15.8	 ±0.0	 ±0.0	 ▲ 44.4	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 16.9	 ▲ 3.0	 ▲ 11.7	 ▲ 31.2	 ▲ 17.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 26.8	 ▲ 16.6	 ▲ 18.7	 ▲ 51.8	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 25.8	 ▲ 19.0	 ▲ 16.6	 ▲ 39.0	 ▲ 27.8

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 54.8	 ▲ 54.1	 ▲ 50.0	 ▲ 74.0	 ▲ 26.6
CCI-LOBO	 ▲ 51.7	 ▲ 63.1	 ▲ 48.8	 ▲ 46.8	 ▲ 49.6

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 4.8	 △ 25.0	 ▲ 12.5	 ▲ 7.4	 △ 13.3
CCI-LOBO	 △ 11.8	 △ 26.3	 △ 5.6	 △ 11.5	 △ 14.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 10.9	 △ 4.1	 ▲ 6.2	 ▲ 22.2	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 15.4	 ▲ 7.8	 ▲ 11.3	 ▲ 26.2	 ▲ 14.3

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (9月速報)

調査期間：平成26年9月12日～19日

調査対象：全国の422商工会議所が3154企業組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、回復に遅れ。先行きは持ち直しを見込むも、コスト増に警戒感

9月の全産業合計の業況DIは、▲24.2と、前月から▲3.7ポイントの悪化。5月以降、▲20前後で推移していたものの、急激な円安進行に伴う仕入価格の上昇やエネルギーコストの増大により、収益が圧迫されている中小企業では、景況感に弱さがみられる。また、消費税引き上げの影響は和らぎつつあるものの、物価上昇が賃金の伸びを上回る中、消費者の買い控えにより売上回復が遅れるなど、中小企業や家計における円安の悪影響が広がっている。ただし、比較対象となる前年同月は、住宅を中心に駆け込み需要がみられた時期であることに留意が必要。

先行きについては、先行き見通しDIが▲20.2（今月比+4.0ポイント）と、改善を見込む。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。生産・消費の回復が期待より遅れている中で、年末にかけて緩やかに持ち直すと期待感が伺えるが、他方で、足元の急激な円安進行に

より、仕入価格やエネルギーコストが上昇する中、中小企業においては、収益圧迫が続く、先行きに確信が持てないなど、慎重な見方もみられる。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「資材価格や燃料費の上昇により、利益率が悪化。また、8月の天候不順に伴う工期遅れも続いている」（一般工事業）、「人手不足が続いているため、定年となった社員を非正規社員として再雇用し、受注に対応している状況」（建築工事業）、「公共工事などの受注は堅調だが、人手が逼迫。年末の繁忙期に向けて、離職防止や採用強化のため、賃上げを行う」（土木工事業）

【製造業】「印刷紙やインクなどの仕入コストが増大する中、さらに円安が進行すれば、経営は一層厳しくなる」（印刷業）、「個人消費の回復が遅れる中、取引先が在庫過剰を懸念し、仕入を抑えているため、売上が伸び悩んでいる」（家具製造業）、「業績が改善しており、社員のモチベーション向上のため、定

昇・ベアを実施。今後も、業績にに応じて賃上げを検討する」（自動車部品製造業）

【卸売業】「徐々に売上が回復しつつあるものの、競合他社との価格競争が激しく、採算面での回復が遅れている」（農産物卸売業）、「台風や大雨の影響により、アイス・飲料などの夏物商品の動きが鈍く、苦戦が続いた」（飲料・食料品卸売業）、「ガソリン価格の高止まりに加え、高速道路の割引改定の影響が大きいため、収益を確保できない」（洗剤・補修剤卸売業）

【小売業】「人材確保・定着のため、非正規社員の正社員化を積極的に進めている」（百貨店）、「食料品のほか、日用雑貨やインテリアなどの売上が徐々に回復してきている」（総合スーパー）、「生鮮を含む食料品や生活必需品の価格上昇に伴い、消費者が支出を抑えており、総じて売上が伸び悩んでいる」（商店街）

【サービス業】「野菜や精肉などの高値が続く中、価格転嫁ができず、採算は厳しい」（飲食店）、「宿泊者は多いものの、消費税率引き上げ分の転嫁が一部に止まっているほか、光熱費の負担も重く、利

益確保が困難」（旅館業）、「営業エリアを拡大したいが、採用募集をしても応募がないため、計画が滞っている」（不動産・清掃業）

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	▲14.1	5.9	±0.0	▲20.9	▲38.2	▲14.7
5月	▲21.8	±0.0	▲12.4	▲22.9	▲50.0	▲19.1
6月	▲20.3	±0.0	▲11.7	▲25.0	▲44.4	▲17.1
7月	▲19.7	▲2.1	▲14.1	▲22.2	▲41.0	▲16.5
8月	▲20.5	▲4.8	▲10.9	▲27.3	▲43.0	▲16.7
9月	▲24.2	▲10.4	▲13.1	▲30.5	▲42.2	▲24.9
見通し	▲20.2	▲12.6	▲11.8	▲29.8	▲32.4	▲18.0

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI